

## つくば市記者会 御中

発信日：令和6年（2024年）7月25日（木）

発信元：つくば市 保健部 健康増進課

■取材依頼 ■周知依頼 □募集告知 □その他

# つくば市バースセンター全面供用開始 報告会を行います

つくば市は、市民の安全で安心な出産の場を安定的に提供することを目的として、国立大学法人筑波大学との連携のもと、筑波大学附属病院内に、医師立会いの院内助産システムである「つくば市バースセンター」を設置しています。平成25年9月より既存の周産期病棟内に6床で開設していましたが、この度の施設再整備により6床増床（計12床）し、新たな専用フロアを開設するに当たり、以下のとおり報告会を行います。

【日時】 令和6年8月1日（木）10:30～11:15

【場所】 筑波大学附属病院 B棟11階 紫峰ホール（天久保2丁目1-1）

【報告会概要】 つくば市長・筑波大学長あいさつ、バースセンター概要説明、質疑応答、記念撮影、病棟内視察

### 【バースセンターの特徴】

全ての部屋がLDR（陣痛、出産、産褥期を同室で行える施設を有する部屋）で、家族の立ち合い出産が行えるようになります。

【取材方法】 取材をご希望の際は、7月31日（水）12:00までに、問合せ先まで御連絡ください。

令和6年6月27日  
国立大学法人筑波大学  
つくば市

報道関係者 各位

## つくば市バースセンター全面供用開始報告会について

筑波大学附属病院では、医師立会の院内助産システムである「つくば市バースセンター」の全面供用開始報告会を8月1日に開催いたします。

本センターは、つくば市との協定のもと「つくば市総合周産期医学寄附研究部門」が設置され、平成25年9月より既存の周産期病棟内において6床で部分的に開設していました。この度、つくば市の支援により、新たな専用フロアが開設され、すべて個室の12床が加わることとなります。この12床は、入院から出産、産褥期まで同じ個室で行えることが特徴です。

「つくば市バースセンター」の全面供用によって、人口が増加傾向にあるつくば地域において、安心して出産できる環境整備の一助になればと願っています。

### 【つくば市バースセンターの特徴】

全ての部屋がLDR(陣痛、出産、産褥期を同室で行える施設を有する部屋)で、家族の立ち合い出産が行えるようになります。さらに、NICU(新生児集中治療室)と、GCU(新生児回復室)をそれぞれ6床ずつ増やします。

全国的にも女性の出産年齢の高齢化が進んでいると言われています。

筑波大学附属病院は、県内唯一の特定機能病院であり、また、総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク出産に対応する責務も担っています。今回のバースセンターの全面供用開始によって、つくば市の周産期医療体制の充実・向上に寄与するものと考えております。



【備考】 LDR : Labor(陣痛)、Delivery(分娩)、Recovery(回復)の略語

### 【日時等】

- 日時 令和6年8月1日(木) 10:30 ~ 11:15
- 場所 筑波大学附属病院 紫峰ホール(B棟11階)
- 出席者 筑波大学  
永田 恭介 学長  
平松 祐司 副学長・理事、附属病院長  
濱田 洋実 医学医療系産科婦人科学教授  
つくば市  
五十嵐 立青 市長  
松本 玲子 副市長

※8月1日の報告会に先立って、メディアツアーも検討していきます。ご希望をお寄せください。

※全面供用開始報告会終了後、出席者がつくば市バースセンター病棟(B棟6階)の視察を行います。

### 【問い合わせ先】

筑波大学病院総務部総務課 小山  
029-853-3519  
つくば市保健部健康増進課 飯野  
029-883-1324